

令和3年度 第1回千葉市立博物館協議会議事録

- 1 日 時：令和3年8月26日（木） 午後1時30分～3時00分
- 2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室（委員はリモートで参加）
- 3 出席者：（委員） 委員長他 4人出席
委員長 萩原 司
副委員長 小島 道裕
委員 広田 直行
委員 鈴木 一彦
委員 小林 さおり

（教育委員会）

生涯学習部 佐々木部長

同部文化財課 佐久間課長、森本主査

（事務局）

同部加曽利貝塚博物館 神野館長、後藤副館長、長原主査

同部郷土博物館 天野館長、芦田副館長、錦織主査

（傍聴人）なし

4 議 題

- (1) 令和2年度の事業報告について
- (2) その他

5 議事概要及び議事結果

議 題

- (1) 令和2年度の事業報告について
令和2年度の加曽利貝塚博物館及び郷土博物館の事業報告について説明し、各委員から質問や意見が出された。
- (2) その他
文化財課より「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画」の検討状況について説明し、各委員から意見が出された。

6 会議経過

錦織主査の司会進行により、佐々木部長の挨拶、新任の小林委員の紹介と挨拶、関係職員の紹介を行った。

その後、会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していることを告げた。また、千葉市情報公開条例第25条に基づき会議を公開していることを告げ、以後、萩原委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）令和2年度の事業報告について

< 説 明 >

加曽利貝塚博物館及び郷土博物館から、令和2年度の事業報告を行った。

< 質疑応答等 >

萩原委員長 ただいま、事務局より説明があったが、質問や意見などがあつたらお願いしたい。

鈴木委員 資料2ページの「資料の整理保管」の部分に「台帳の整理及び保管状況の確認」とあるが、加曽利貝塚博物館では台帳はパソコン等でデータベース化されているのか。

神野館長 加曽利貝塚博物館では現在、基本的にはパソコンで台帳を作成している。古いものなど一部反映されていない部分もあるが、これについては鋭意データベース化を進めているところである。

鈴木委員 対外的にデータをやり取りすることがあると思うので、そうしたデータの作成は重要だと思う。

広田委員 資料15ページの講師派遣について、派遣先に千葉市地域づくり大学校とかボランティア大学とあり、会場がハーモニープラザやいきいきプラザとなっているが、これはどういう施設なのか。また、これらは社会教育事業の一つとして認識してよいか。

萩原委員長 いきいきプラザは社会福祉協議会が運営する施設である。

芦田副館長 そうした施設もしくはそこで活動する方々から当館に歴史講座などの講師の依頼があり、それに対して職員を派遣したということである。

広田委員 コミュニティーセンターは利用しないのか。

芦田副館長 コミュニティーセンターで行う場合もある。

小島委員 資料17ページの中級古文書講座だが、立教大学文学部の後藤雅知先生が講師となっている。外部の優れた講師を招くのはよいことだが、後藤先生は千葉市史編さんと関わりのある方なのか。

芦田副館長 後藤先生には千葉市史の編集委員をお願いしている関係で、古文書講座の講師もお願いしている。

- 小島委員 昨年度、コロナの影響で色々な事業が中止を余儀なくされてたいへんだったと思う。どこの博物館も同じような状況だが、ただ中止するだけではなくて、コロナに対応してこれを代わりにやったとか、普段できないことをしたということがあれば教えてほしい。それと中止せざるを得なかった事業についても、こうすればできたのではないかなどコロナ時代における反省と展望があれば聞かせてほしい。
- 芦田副館長 郷土博物館では、鎌倉騎馬武者体験などの体験事業は実施できなかったが、本来鎌倉時代の武士について市民の方に知ってもらうための事業であることから、代替としてブックレットを作成し、それを読むことで理解を深めてもらう取り組みとした。また、学習支援コンテンツについても学校が来館できない中で、子どもたちが博物館を見学体験できるような映像として作成したものである。展示に関しては来館者の減少はあるものの、ほぼ予定通り実施できたが、講座はかなり人数を減らして実施するか、無観客であれば映像もしくは講演録を発行するという対応を行った。
- 小島委員 学習支援コンテンツの映像はどのような形で配信されているのか。
- 芦田副館長 YouTube での配信だが、郷土博物館のホームページの教育活動から入って見られるようになっている。
- 天野館長 昨年度は人数を絞って歴史散歩や講座を実施したために、参加できなかったとか、聴きたかったのにはずれてしまったという声が多く聞かれた。そのため歴史散歩では巡ったところの写真を全て撮っておいて、終わった後に Twitter でこのようなところを巡ってきたという紹介をした。特別展についても同じように Twitter で順番に展示資料を紹介するなど、コロナ禍でなかなか来館できない方にも中身を知ってもらえればと考えて SNS で発信をしたところである。
- 神野館長 加曾利貝塚博物館では、昨年度の上半期については慎重にということでイベント等を中止としたが、後半については対策を取りながらできるものについては行った。中止したイベントの代わりに新規の県内縄文遺跡展という展示の充実ということで対応している。イベントについては、物販や集客をとまなうような大規模なものではできないが、演目を学習的なものに絞り、さらに参加者も適正な数に絞って事業を行った。こうした昨年度の流れは本年度も引き継いでおり、事前申し込みによる学習的な色彩の強い体験などを用意してイベントを行っている。このように博物館の本分である展示等の充実などでカバーしたところである。
- 鈴木委員 今の質問にも関係するが、昨年度かなりイベントが中止になったというこ

とで予算がある程度あまったのではないかと思うが、その場合来年度の予算に影響するのか。コロナが収束すればよいが、今年度もなかなか収束しない中で、かなりのイベントが中止になる可能性がある。できないものについてWEBやリモートでのイベントを考えていくという方向になっているのか。

芦田副館長 来年度予算についてはこれから要求をしていくことになるが、コロナの影響で事業ができなくなるほど大幅に縮小するということは聞いていない。単年度予算なので今年度使えなかった分を次年度に回すようなことはできないので、予算の中で代替の事業を考えていくことになる。次年度についてはこれから予算編成があるので次回の会議で報告したい。

神野館長 加曽利貝塚博物館も同様で、来年度コロナということで何か予算を変えるということは考えていない。

鈴木委員 今年やらなかったために来年度その分の予算が減らされるといったことは無いという認識でよいか。

芦田副館長 事業自体の精査は必要だが、今年やらなかったから次年度に予算を切られるということは無いと考えている。

鈴木委員 役所の主計は厳しいと聞いているので、そうならないことを祈る。

小林委員 小学校の教員から、もっと小学校と直結して利用したいという声があがっている。各児童にGIGATABも入ったので、GIGATABで活用できるような学習コンテンツがあるといいと思う。例えば蒙古襲来とか千葉氏に関係のあるもので、歴史的に小学校の勉強と直結するものがあるといいという意見がある。そのあたりを検討してもらいたい。

天野館長 我々も教育普及活動については重点的に扱っていくことを考えている。館のホームページを見ていただければわかると思うが、出張出前授業のプログラムを中学校と小学校それぞれ10程公開している。あわせて館内の学習用のワークシートも多数アップしている。今ご意見をいただいたので、学校の先生方が授業で使えるような資料についても今後、検討して参りたい。また、昨年3月の会議でも鈴木委員から職員が内部で撮影した映像をアップしたらどうかというご意見があったが、コロナで実施できなかった鎧の着用体験について職員が撮影して映像コンテンツを作成し、近々アップする予定である。今後、いろいろな形で授業で使えるようなものをエディタとも相談しながら、作成していきたいと考えている。またこんなものがあつたらいいというご意見もぜひいただければありがたい。

萩原委員長 他に何か意見はあるか。なければ次の議題へ移る。

議事（２）その他

< 説 明 >

佐久間文化財課長より「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画」の検討状況について、主に昨年度の会議で示した「素案」から「中間とりまとめ案」の作成過程で変更された点などを中心に説明した。

< 質疑応答等 >

萩原委員長 ただいま、事務局より説明があったが、質問や意見などがあつたらお願いしたい。

小島委員 修正を加えてだんだん良いものになってきていると思うが、1点私が述べたところがよく理解されなかったと思う部分がある。8ページの各エリアの役割のところ、「加曽利貝塚に着いたら、まず新博物館へ」とある上から4つめに「周辺エリアの自然環境や史跡などの特徴や魅力を感じる」とある部分だが、これは新しく入れていただいた部分だと思うが、周辺エリアとしてしまうと加曽利貝塚の周りとしか読み取れない。私が言ってきたのはそういうことではなくて、むしろ地域、あるいは縄文社会全体のことである。加曽利貝塚だけが孤立して存在したわけでは無いので、もっと面的に広い地域の中に加曽利貝塚や他にも様々な村があつたわけで、それが現在の我々が住んでいる地域と重なっている。加曽利は特別価値が高いところだとは思いますが、もっと多くの貝塚や縄文遺跡が、千葉市域にとどまらずたくさんあつて、身近な存在だ。おそらく各小学校の校区の一つぐらいずつあるのではないか。加曽利に行って加曽利のことしか勉強しないというのは不十分だと思う。生徒が来たときに何を気にするかというと自分の住んでいるところを気にする。だから千葉県ぐらいの地図が必要で、そこに縄文遺跡がどこにあるかを示さないといけないと思う。そこで生徒はまず自分の住んでいるところはどこか、その周辺にはどんな遺跡があるのかを知って、それと加曽利を合わせて勉強することで自分の住んでいる地域のことをはじめ理解できる。こうした興味を持ってもらう取っ掛かりの部分が無いと、効果が薄いと思う。後の方でSDGsのことを意識しているが、これもまさにそういう問題だ。縄文社会は地域社会を持続的に維持するにはどうしたらよいかを考える良い素材である。最近コロナで閉じ込められてまわりを歩くようになってはじめて発見したが、縄文の村の間隔と近世の村の間隔はあまり変わらない。縄文社会はだいたい2km間隔で村ができていると言われているようだが、近世もだいたいそうだ。とする

と自分の村はだいたい半径 1km くらい。これは小学校の校区とほぼ一致するのではないか。歩いて 15 分くらいそれが自分の村のエリアであり、その中で自給自足するということがどういうことを考えると縄文社会の意味がわかるし、縄文時代には 5 人とか 10 人くらいしか住んでいないのに、今は子どもだけでも数百人住んでいるというのがどういうことか、社会の違いとしてははっきり見えてくると思う。なんでこんなに大勢の人がこんな狭い範囲に住めるのかなど社会の仕組み自体が非常によくわかる。半径 1 km の範囲で自給自足で暮らしてみろというのが一番いい縄文体験だと私は思っている。そうしたことに繋がっていく話がこの基本計画の中にはうまく盛り込めていなくて、加曽利貝塚の次が急に縄文文化という非常に抽象的な世界になってしまっている。その間に地域社会という観点を、これから修正されていくなかで盛り込んでいただければいいと思う。

鈴木委員

まず、展示に関してだが、②の没入型展示と③の対話型展示について、私も前回コメントさせていただいたが、今回の方がはるかに現実的な内容になっていると思う。特に没入型で映像を使うということは展示の入れ替えが楽になるし、様々な表現ができるということになる。レプリカを使うとなかなか入替が難しいし、予算もかかるので、これは現実的かと思う。対話型の方も実現がしやすいものだと思う。

もう一点。II 章に事業活動のテーマがあり、「LIVING JOMON」とある。これは個別に説明いただいた際にコメントさせていただいたと記憶しているが、これをそのまま読むと「縄文人が生きている」「縄文時代が今も続いている」という意味で捉えられかねないので再考した方がよいと伝えた。これについては文化財課からメールで返事があり、国際交流課にも確認し、やはり違和感があるということで、いくつか他にも提案してもらったようなのだが、これについてはどのようになったのか教えてほしい。

佐久間課長

事業活動テーマの「LIVING JOMON」の訳文としては「生きている縄文」としているが、LIVING が縄文人自体が生きているとの意味に捉えられかねないとの指摘をいただいていたが、これについては良い代替案が見い出せなかったもので、素案のままになっている。問題意識としては十分に持っている。英語にとらわれる必要は無いと考えているので、調整がつかなければ日本語で「生きている縄文」で行こうということも考えている。ただ、「生きている縄文」というのは縄文時代の英知が今も生きているということで、縄文時代がそのまま今も続いているということではないので、このままでは難しいとも考えている。一方、北海道・北東北の方で縄文は生きているというフレーズを使っているので、生きている縄文だけだとかぶる部分が出てくる。表現したい内容は決まっているが、いいキャッチフレーズが出てこなくて決めかねている状態である。ここは最終的な基本計画までには整理したい。

鈴木委員 この「生きている縄文」の下に説明があるが、ここには二つの方向性が入っており、おそらくこれが難しくしている。一つは博物館に行って縄文時代を体験すること。もう一つは現代の我々の生活にも縄文文化の影響が残っていること。その二つが入っているのでなかなか英語での表現が難しくなっていると思う。これをどちらかにするとやりやすくなる。外国人は JOMON だけでは分からない。「LIVING JOMON CULTURE」とすれば現在でも縄文の文化が生きているというような意味でとってくれると思う。また、これはメールにもあったが「EXPERIENCE JOMON」であれば体験ということだけでいけるのでないか。そのどちらに重点を置くかということになるのかもしれない。この二つの意味合いを英語で表現することは難しいと思う。参考にしてもらえればと思う。

萩原委員長 他に何か意見はあるか。なければ今出された意見を踏まえて計画の策定を進めてほしい。他に事務局から何かあるか。

天野館長 回目の会議の日程についてだが、例年通り 3 月の中旬頃を予定している。後日日程調整をさせていただくのでよろしくお願ひしたい。

萩原委員長 他に何かはあるか。

小島委員 話が戻るが、昨年度の郷土博物館の特別展「軍都千葉と千葉空襲」の展示が非常に意欲的で戦争の遺跡や痕跡を地域の中で丹念に掘り起こしたとても意義のある展示だったと思う。このことを付け加えておきたい。残念ながら私は行かれなかったが、先ほど紹介があったように Twitter で丹念に内容を紹介していたので、それで内容を知って楽しむことができた。その点もたいへんよかったと思う。最後に一言付け加えさせていただいた。

萩原委員長 他に何かはあるか。なければ、本日の議事はここで終了する。

錦織主査の進行により、令和 3 年度第 1 回千葉市立博物館協議会を終了した。

問い合わせ先 千葉市立加曽利貝塚博物館
TEL 043-231-0129
千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231